

フランス・イタリア巡礼の旅

2015年5月26日（火）～6月5日（金） 11日間

《前編》

5月26日（火）

不安と期待に胸を膨らませ、初めてのヨーロッパ巡礼に出発。長い機内での時間はおしゃべり、食べる、寝る…を繰り返す。パリ・シャルルドゴール空港到着。飛行機を乗り継ぎ、深夜トゥールーズに到着。普段は当たり前のことだけどベッドで横になれる喜びを味わう！

5月27日（水）

バスにてルルドに向う。思っていた気候よりも寒いので、途中のパーキングで上着を購入。バスの車窓を気持ちよく眺め「フランスにいるんやな～」と実感。

修道院に到着。私たちの仲間の巡礼団と合流！昼食後、ルルドの聖域へ。抜けるような青空の下、ひときわ目を引く大きな三段重ねの聖堂。その前には白いバラに囲まれた微笑み美しいマリア像。聖堂横のグロットで祈り続けるいろいろな国の人々。頭の中の雑念が一気に飛びルルドの空気に包み込まれました。



午後4時から、修道院近くの小教区の教会での日本語のミサとコンサート。“聖母マリアに捧げるコンサート”では沖汐 繭さんのパイプオルガンの演奏と福田 浩子さんのソプラノに酔いしれました。その音色と歌声にひかれて私たち巡礼団だけでなく現地の方や他の巡礼の方も教会の中に引き込まれていました。このツアーならではの普段なかなか味わうことのできないすばらしいコンサートを企画して下さいました。大変感謝しております。そして今回の旅の思い出のよき一ページとなりました。

夕食後、再びルルド聖域へ。マリア・プロセッション（ろうそく行列）に参加しました。そこでは、車椅子やベッド型の手押し車の人々も共に行列に参加されます。そして、彼等をサポートするボランティアの人々。そのボランティアの人々も決して若く元気な人ばかりではありません。でも生き生きとしておられ「自分にも何か出来る！」という喜びと自信を持って接しておられる感じが伝わってきました。日頃ちょっとした難題にぶつかった時すぐに「自分には無理」とあきらめてしまう事があります。その自分自身が恥ずかしくも感じられ、少しは自分の可能性を信じて難題にもぶつかっていかねば！と思い直しました。

それにしてもこの時期のフランスは昼が長い！夜9時なのに薄明るいのです。注意しないと活動時間がフルになり睡眠時間が少なくなってしまうそうです。気を付けましょう！

5月28日（木）

修道院での朝食。「クロワッサンが美味しかった！」

聖域内の修道院の聖堂での朝の日本語ミサ。大勢の日本からの神父様が祭壇に並ばれ、贅沢なミサを味わいました。その後グロットの前を通り奥の沐浴場へ。「沐浴する？しない？どうしょ？」と日本では考えたりしていましたが、スーと自然に沐浴の列に並ぶことができました。待つ間いろいろな国の言葉でマリア様の祈りが捧げられ、そのおかげで変にドキドキすることもなく。自然な流れで沐浴することができました。

午後からは町の中のベルナデッタに関する場所を訪れました。それにしても当時のこのフランスの田舎の村で、しかもグロットの辺りは何も無い野山だったというのを想像すると今の聖域周辺の一変した様子が信じられない感じでした。ベルナデッタは水車小屋の二階で生まれ、家族とともに元牢獄で生活していました。そこはだれも住みたいとは思わないような薄暗い場所でした。読み書きも出来ない少女ベルナデッタ。そんな少女の聖マリアのご出現、誰もが耳を疑うでしょう。しかしその時から私たちを導いて下さっていることが始まり、後世の人々に伝わり続け、ベルナデッタの「祈り」と「深い信仰」は当時から今も生き続けていると感じました。

夕食後、私たちは行列に並ぶのではなく、ろうそく行列を聖堂の上から見ました。人々の祈りの声とろうそくの炎、人々が一体となり、喜びの声に聞こえました。感動のひとつでした。



5月29日（金）



早朝、グロットでの日本語ミサです。いよいよこの場所での特別な時間。世界中にミサの様子が配信されているようです。朝のすがすがしい空気の中でベルナデッタと共に祈るような感じがしました。グロットでもっとゆっくりしていたかったのですが、次々とミサの順番が決まっているので、まるで劇場の入れ替えみたいにグロットをあとにしました。

急いで修道院に戻り朝食を取り、バスに乗り込みました。バスの中からの景色は日本とは違うぶどう畑（棚がない）が印象的でした。あれをぶどうと聞かなかつたらわからないところでした。

今までの山の景色とは一変サント・マリー・ド・ラ・メール（海の聖マリア達）はこじんまりとした港町で、古い石造りの教会が町の真ん中にありました。この時、教会内でお祈りをしていると、教会の方に「どうぞミサをして下さい」と言われ、急遽ミサが執り行われました。素敵な教会で思わぬ日本語のミサに与ることが出来ました。



5月30日（土）

本日も快晴！アヴィニョンへ

城壁に囲まれた古い街。バスは中の方には入れないので、歩いて教会へ。しかし予定が変更になり少し遠い教会へ歩かなければいけなくなる。ちょっとしんどかった！でも、街の中の石畳や路地、商店の様子がよくわかった。少し広場があると必ず目につくのがメリーゴーランド。ヨーロッパの人たちはお好きなのかな？ アヴィニョンの橋を横目に見て、バスの旅は続く。

明るい太陽と目がさめるような青い海、おしゃれなパラソル…「おお！ここがニース」と小声で叫んでみた。これから夏のバカンスシーズンというキラキラした季節だ。街の中で昼食をとり、出発。バスの車窓から、ニースの豪邸そしてモナコを眺める。世界中から富豪が集まっているのか…といろんな想像をし、いよいよイタリアへ入る。

フランスよ、さようなら～また来る日まで～

Yayoi

